

第32回里山一斉調査報告

文・写真 常俊容子(NOB里山委員会 野生シカ調査会)

2013年度 正味財産増減計算書

2013年4月1日から2014年3月31日まで

科目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取会費	4,726,000	4,888,000	-162,000
事業収益	13,746,532	20,205,790	-6,459,258
受取補助金等	1,755,258	6,889,060	-5,133,802
受取寄付金	2,482,873	779,041	1,703,832
雑収益	369,716	1,024,880	-655,164
受取利息	1,894	2,774	-880
有価証券利息	590,801	1,033,797	-442,996
経常収益計	23,673,074	34,823,342	-11,150,268
(2) 経常費用			
事業費	21,756,888	26,972,613	-5,215,725
補助金支出	550,162	5,481,130	-4,930,968
管理費	3,307,971	3,812,370	-504,399
雑損失	358,166	218,967	139,199
経常費用計	25,973,187	36,485,080	-10,511,893
評価損益等調整前当期経常増減額	-2,300,113	-1,661,738	-638,375
投資有価証券売却損益等	2,362,450	807,480	1,554,970
評価損益等計	2,362,450	807,480	1,554,970
当期経常増減額	62,337	-854,258	916,595
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	62,337	-854,258	916,595
一般正味財産期首残高	77,208,804	78,063,062	-854,258
一般正味財産期末残高	77,271,141	77,208,804	62,337
II 指定正味財産増減の部			0
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	77,271,141	77,208,804	62,337

2014年度 収支予算書

2014年4月1日から2015年3月31日まで

科目	予算額	前年度予算	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取会費	4,800,000	5,200,000	-400,000
事業収益	14,100,000	15,200,000	-1,100,000
受取補助金等	600,000	600,000	0
受取寄付金	1,100,000	1,000,000	100,000
雑収益	700,000	650,000	50,000
受取利息	800,000	750,000	50,000
経常収益計	22,100,000	23,400,000	-1,300,000
(2) 経常費用			
事業費	9,300,000	19,869,000	-10,569,000
補助金支出	580,000	480,000	100,000
管理費	12,220,000	3,051,000	9,169,000
経常費用計	22,100,000	23,400,000	-1,300,000
評価損益等調整前当期経常増減額	0	0	0
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	0	0	0
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	0	0	0
一般正味財産期首残高	77,208,804	77,208,804	0
一般正味財産期末残高	77,208,804	77,208,804	0
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	77,208,804	77,208,804	0

2.組織・運営の充実

(1) 公益法人の維持運営

公益社団法人への移行を認定された諸条件を堅持し、組織・財務会計・事業内容などの点検を継続する。

(2) リスクマネジメントの充実

昨年度に取り纏めたケガ・事故事例を参考に、各グループリーダーを対象にした研修会を行い、参加者の安心・安全の充実を図る。また、保全活動に伴う動力機器使用を安全に行うための講習会を開催する。開催にあたっては事前に各グループの実情を調査し、適切な内容にする。

3. 自然環境保護保全の経常活動

- 水生生物調査研究会の継続
- 都市公園自然調査研究会の継続
- 草地生態系研究会は、草地生態系保全講座を開講する。
- 主な開発問題への取り組み
彩都開発・余野川ダム建設／安威川ダム建設／国際文化公園都市開発／第二名神高速道路建設など、自然環境を損なう事業に対応する運動の継続。中止になった槇尾川ダム事業代替治水策策定への協力。
- 近畿圏のダム問題の無駄・有害な事業中止運動の支援・継続

■ 役員の改選

今回、理事では高島氏のほかに道下雄大氏も退任されました。岡和田齊氏は3月に辞任。皆さんお疲れさまでした。選任された全役員は次の通りです。

【理事】夏原由博(代表理事・会長)／金谷薫(代表理事・副会長)／(以下理事)上田宏／大塚陽一／岡秀郎／加賀まゆみ／木村進／栗谷至／田中秀雄／田中広樹／田淵武夫／野田奏栄／畠佐代子／早川篤／宮本義人

【監事】新居誠一郎／岩井義清



写真-1 高槻・原盆地コース コバノミツバツツジ (写真: 茨木・高槻自然に親しむ会 大塚 陽一)



写真-2 オオルリ (写真: 吹田自然観察会 山田 陽子)



写真-3 高槻・原盆地コース コース分断工事 (写真: 茨木・高槻自然に親しむ会 大塚 陽一)

春恒例の保全協会主催行事「里山一斉調査～観察しながらウォーキング」は今年第32回、初日4月6日は冬に逆戻りの天候でしたが、他は概ね穏やか。7日2コース、13日8コース、19日1コース、20日1コースの計12コースで実施(コース名は確認表参照)、延べ165名(うち中学生以下7名)が参加しました。

昨年同様に開催が3週にわたりましたが、昨年より花暦は早く、コバノミツバツツジ(写真-1)がちょうど見頃。鳥もシロハラからオオルリ(写真-2)まで。花期の異なるサクラの情報も例年この時期らしい話の種です。

定点観察ならではの、お馴染みの動植物種の確認に安堵し、未確認に何故?原因は何?が課題になったというコースもあり。

今年も人為による負の影響として、高槻・原盆地では第二名神の

関連道路工事でコースは分断(写真-3)、八尾・高安山の山麓はすっかり宅地化され、コース全体でカンサイタンポポ減、一方で田畑の急激な減少と宅地造成の止まらぬ泉南・畦の谷では数年来盛り返したカンサイタンポポが優位を保つという現象。堺・鉢ヶ峯では三面張りの川底の土が流れ、ホタルの生息に懸念あり、とのこと。

和歌山県の橋本・玉川峡は高野山に至る古道が通る紀伊丹生川中流部のV字谷溪谷、棚田、畑地、耕作放棄地、草地、湿地、河畔林、放棄林など様々な要素が混在、他コースとはひと味違う景観です。草本の開花が例年に比べ遅く、昨年9月の台風18号で樹木を含め草地も流され、川辺の植生が消失。春植物が豊かな枚方・穂谷でも台風で崩れた土手の修復、側溝の拡張、造成地